

第2回武蔵野市図書館運営委員会選書部会の記録

日 時 平成 16 年 9 月 21 日（火） 午後 6 時 30 分
場 所 中央図書館 4 階会議室
出席委員 毛利和弘部会長 赤星昌子委員 池田 泰委員
山本輝子委員 米山吉祥寺図書館長 丸本サービス担当係長
事務局出席職員 三木館長 小島課長補佐 柏倉図書担当係長 森川西部図書館長
並木主任 尾上主事 船崎専門委員

議題及び内容

○ 主な協議内容

(1) 議題

① 武蔵野市図書館の選書について

② その他

なお、主な意見等は以下のとおり。

- ・ 価格帯別蔵書統計を見ても単純にあまり高い本が無いと感じるだけで、蔵書構成については何も見えて来ない。分類別×価格のようなクロス集計が望まれる。
- ・ 現行の電算システムでは統計資料が出にくいということだが、新しい電算システムを導入する予定は？
→ 現行システムは 7 年目。利用頻度が高いため消耗がすすみ、更新の緊急性を増している。
- ・ 新システムでは様々なクロス集計が出ることを期待したい。
- ・ 現在の利用者端末は蔵書の検索に時間がかかり、絞込み検索もできない。他の図書館や大学図書館の蔵書を検索できるような端末があると良い。
- ・ 団体貸出の本の整理を手伝ったが、長い間借りたままの本や、無くなった本があると聞いた。どう管理しているのか。
→ 団体貸出図書は電算管理ではなく冊数貸出管理をしている。貸出期間は原則 2 ヶ月だが、延長されることも多い。今年度は団体用の図書のデータベース化を行い、新システム導入後電算化し、適正な管理を行いたい。
- ・ 教育や心理学などの専門書に不明の本が多い気がする。返さない人がいるのだろうか。
→ 個人に貸す場合はデータ入力されているが、転居等で回収できない事もある。
- ・ 不明本は無断持ち出しと考えれば間違いないと思うが、買い替えはどのようにしているか。
→ 蔵書点検で 2 年連続不明であるものをチェックし、基本図書等は再購入する。ただし絶版等で購入できないものもある。
- ・ 不明本は図書の蔵書構成に大きな影響があり、図書館の機能が果たせなくなる。盗難防止装置の導入を望む。
- ・ 盗難防止装置の導入にあたっては、「市民をどろぼう扱いするのか」という声もあると思うが、不明本の現状について広報し市民の理解を求める必要があるだろう。